第一五六話 後編

世界初！

龍爪術対スンチャク激突

スポーツに武道においても！

まんねり試合と！みなさんは！

思いませんか！

人様を来(せ)暮(ぞ)的に感動させる

試合内容たるものが！出てこな

いですな！

そこで私が入院中に考え

ていたのが！「武器と武器と

の試合であった」

まずは、この企画をどんぐ

り目の病院長に話しを伝え

たのでござる。

院長は、目を大きく開き！

おお！それは、良か！企画ば

誰が考えたとな！

もちろん私です。

「もう！空手のことは忘れてしまったのかと思ってたばい。」

それでこの企画を誰かに話したとな！

いや、一番先に院に伝えたかったとですよ。

このカードで画期的試合になるばい、そいばってん！この試合に使う武器は！何にをつかうとな！

相手が、ヌンチャク。私が「鉄のツメ」

「相手はもう決っているとな！」

いやまだです。これから探がします。

それに私が使かう武器も、作らないといかんし！

「それでは！「おい」院長が！プロ空手の代表に電話をかけてやるけん。良かな！」

それ、院長は、プロ空手の代表と、話しんでいた、終ったようだ。

「軍君、代表は、本当に、そのような試合が出来るのかいってこたばいんでさるのであれば、最高に良かばいといっていた。

院長、わざわざ電話までかけて下さってありがとうございます。さあ、後は、世界初のイベントを実行するだけである。

それから、数ヶ月あとに、タンチクの便かい手の男性が見つかった。

私も忙がしくなってくるので、利便性を考えて、福岡市内に、住むことにした。福岡モーター人の社長と、出会いができて、

工場の上の部屋を借りてもらった。部屋といっても、屋根

が、すぐ上にあって手がとどく、
ようなところであり、
塗る時はいつも、蜘蛛の巣を
見ておりました。
なんといっても来（りょく）は部屋代が
いらない事であった。
ファイトフネーが少ないから大変に
取かりました。
社長ありがとうございました。
やがて、今回の試合のポスター
が、出来上がりました。
しかしこれからが大変な、毎日
でした。夜の暗い時間に街の
中に出て、ポスターを張りに行
くのである。
私の顔が見えないように、マスク
を、かけて（デンシュウ）はけでのりを
つけてから張る訳でござる。
昼間には、宣伝車で、街を走り
まわり、大きな声で、オーリ

大きな声から始まり！さあ！
日本初の武器と武器の無制
限の！どちらかの選手が！
ダブアップするまでの二本勝
負だ。見なきや！社会の流れ
に！ついていけないよ！！……
と！いった調子で！いろいろと！
セリフを考え出して。のの
である。
もっと大変な！仕事が！待っ
ているのでござる。それは！
入場券を捌く事であり、
私は！頭を下げるだけ下げ
て！頼み込みます。
いやでしたね！
だが私が、初のメインでポ多
には！大きく載って、おりま
すので！力が入ってきます。
そして！試合当日がきました
早い選手では！PMの二時ご

ろには福岡泰ーツセンタに入って
それぞれの役割を実行して
いたようだ。
私は、どうしていたかと言うと
西新の喫茶店に花をしてい
る、大学生に声をかけて、
○○の日に格闘技の試合のスタ
ッフのバイトが出来る者を探
す事であった。
「やります、試合も見ることが
できるのでしょう、それは魅力で
すよ。
何によりも、気分が、良い事には、
メインの俳さんと語り合いが出
来たことです。
そして当日は、学生のバイトが、
来て仕事をしているかを確認
する事である。
オスッ、全員来ているようだな。
怪我がないようにたのんだぞ。

隼さん。試合を見ていますから
がんばって下さい。
オスッありがとう。
私の前に試合をした選手が
タンカで運ばれていっている
私は。ケガが。ひどくなければ。良
いがと。心で祈った。
そして。お客さんの入りは。
どうなんだろうと。気になり。
のぞいて見た。オー。いっぱいだ
そして盛りあがっているぞ。
場内からは。ハヤブサを早く出
せ。と声が聞こえてくる。
さあ。出番がきたぞ。平常心
だ。と自分にいいきかせる。
リングアナが。リングにしがった。
お待たせいたしました。
このカードは。世界初の武器
と武器の戦いで行われます。
どちらかの選手が試合が。できな

くなるまでの無制限の一本勝負と、なってあります。

場内からは、待ち切れない様子のヤジの大きな叫びが響く

先に相手の選手を呼び出し、その後に私を呼び出した。

レフリが両者をリング中央に、呼んで、ルールの説明をする。

世紀の戦いの幕の扉がここに開いた。

一本勝負、始めッカンー

そして、ニランドは、お互いの動きを見るだけに終った。

ニランドが始まるとどうじに相手選手が、こきなり出んきた。凄ましい、スンチタクの攻撃をかけんきた。

私は、相手のいきおいに押され後退した。そして私は、ロー

プまで追いつめられた！
その瞬間！目にも止まらぬ
スピードで！私の左の首に
一撃！そしてまた！二度目の
攻撃が首に、めりこんだ。
その瞬間私の心臓への血官
が！ドメ！流れが止まった感じ
であった。
その時の状態を！レフリーは
みのがしては。いなかった

デフリーが！ワン！ツー！
私は！呼吸法を使かい体調を
整えていた！まだ！まだ！
さあこい！私は！ガッツポーズ
で示めした。
そして二分間の時間切れの
ゴングが鳴る。
ヌンチャクの破壊力を！私は
少々あまくみていたようだ！
そして次のランドからは！首から

上のガードを！しっかりカバー
私が得意とする足技を
忘れて！しまっかけていた！
この回は！相手の出かたを待つ
のではなく、私から攻撃をしか
けて出ていく！
私は！両手を顔の横に！しっか
りと、つけて！前蹴りで相手
を牽制を何回かくりかえして
相手の下半身に気を引きつ
けておく事が私の、ねらいで、
ある。
おお！相手も攻撃を変えてきた
ようだ！私の太モモに攻撃を
集中してきた。
そうだ！私の左の太モモを餌
にして！「犠牲」にしよう！足だ
ったら！首のようなダメージは！
大きくはなかろう！！
相手の右手にもったヌンチャク

が！動いた！私の思い通りに足を睨ってきたぞ。
私は！足を動かさないで！相手の意識を！私の足に集中させた。
相手の攻撃と、私の攻撃が！
「かち合うように、はこべば！
私に！勝目があると、みている！
只！私の蹴が！相手の首にジャストミートすればの事である。

良し！きた。いまだ！私は！右足を上げた！相打ちだ！
相手の頭が左右に大きく揺れたよしいまだ！私は素早く竜仙で！相手の顔面を攻撃した。
アッ！しまった。顔面の攻撃は駄目だったんだ。ご免なさい！と心で、いったが！時すでに、終ったあと！

相手は！マットに跪いた
レフリーが！カウントを始めた。
私は！この時に心の中で！
相手に向かって叫んでいた。これ
以上おまいに傷を付け合いたく
ない！頼むから！立ちあがらな
いでくれ！
私の叫びが！通ったのか！
相手は立ちあがって、こなかった。
ああ！！良かった。

この試合で！勝った！負けた。
の問題ではい。内容が何よりも
良かった事が、お客様に、とって
も！満足されたことと信じている
！だが！私にとっては！今回の試合
で！反省をしなければいけない！
いうまでもない事であるが！
いくら！裏拳であろうとも！
顔面への攻撃は！いかんのである。
まして！私が手につけている物は

鉄で作った武器なのだ。
私は！試合の翌日に相手が仕事をしている天神の地下街の店に行った。！エッ！！びくッ！した。
眼滞をしていたのである。
私は！相手に向かって！深く頭を下げて、ご免なさい！済ません！
相手は！笑っていた。仕事は休むことなく続けていたのだ！たぶん！
かわりの者が！いなかったのではないだろうか！本当に申し訳ない。
それから！二週間後に店に行った。
相手の姿が見えない！どうしたのだ！私は不安を感じた。
私は！店の方に！聴いたところ！実家に帰えりましたッ！
えッ！そうですか！その後相手とは会うことができなかった。